

**授業概要**

本演習は、主として日本の近現代史（幕末・明治維新时期～現代）の分野から卒業論文のテーマを設定しようとしている学生を対象とする。夏休みに入るまでに、おおよその卒論テーマを決めてもらうことになる。

春期の授業では、論文の書き方や文献・資料（史料）の集め方などの説明を行うとともに、指定したテキスト（山内昌之・細谷雄一編『日本近現代史講義』）を使って発表と質疑応答を行いながら内容を検討していく。

秋期の授業では、各人が設定したテーマについての研究報告（先行研究や文献・史料の紹介、問題の設定など）を行う。受講生全員とのディスカッションを通じて、論文の中身を練ることに努める。

4 年次における卒論作成に向けて、日本近現代史の知識を養いつつ、論文作成法を身につけられるようキメ細かく指導する。

**授業計画**

第 1 回	春期の進め方の説明	第 16 回	秋期の進め方の説明
第 2 回	論文の準備・作成方法について	第 17 回	卒論構想についての 1 回目研究報告①
第 3 回	文献・史料の収集について	第 18 回	卒論構想についての 1 回目研究報告②
第 4 回	『日本近現代史講義』の講読①	第 19 回	卒論構想についての 1 回目研究報告③
第 5 回	『日本近現代史講義』の講読②	第 20 回	卒論構想についての 1 回目研究報告④
第 6 回	『日本近現代史講義』の講読③	第 21 回	卒論構想についての 1 回目研究報告⑤
第 7 回	『日本近現代史講義』の講読④	第 22 回	卒論構想についての 1 回目研究報告⑥
第 8 回	『日本近現代史講義』の講読⑤	第 23 回	今後の卒論準備について
第 9 回	『日本近現代史講義』の講読⑥	第 24 回	卒論構想についての 2 回目研究報告①
第 10 回	『日本近現代史講義』の講読⑦	第 25 回	卒論構想についての 2 回目研究報告②
第 11 回	『日本近現代史講義』の講読⑧	第 26 回	卒論構想についての 2 回目研究報告③
第 12 回	『日本近現代史講義』の講読⑨	第 27 回	卒論構想についての 2 回目研究報告④
第 13 回	『日本近現代史講義』の講読⑩	第 28 回	卒論構想についての 2 回目研究報告⑤
第 14 回	各自の設定テーマの報告	第 29 回	卒論構想についての 2 回目研究報告⑥
第 15 回	春期の総括	第 30 回	秋期の総括

**到達目標**

- ・ 卒論で書くテーマをしぼり、問題を設定することができる。
- ・ 卒論テーマに関連する文献や資料（史料）を収集することができる。
- ・ 文献や史料を読み、内容を理解し整理することができる。

**履修上の注意**

- (1) 日本史、西洋史、東洋史、思想史関係の授業科目を積極的に受講すること。
- (2) 演習は学生主体で行われるものなので、全出席することが前提である。無断欠席は認めない。

**予習・復習**

- (1) テキストは毎回必ず各自事前に目を通しておく。
- (2) 発表に際しては、レジュメを作成する。
- (3) 授業で取り上げたテキストの箇所を読み返して、内容の理解を深める。
- (4) 授業の際に自分の発表に対して提起された教員や他の受講生からの意見を参考にしながら、卒論の構想を練り直す。

**評価方法**

授業に対する姿勢（発表準備や質疑応答への参加）80%、レポート 20%

**テキスト**

- ・ 教科書名：日本近現代史講義
- ・ 著者名：山内昌之・細谷雄一編
- ・ 出版社名：中公新書
- ・ 出版年 (ISBN)：2019 年 (978-4-12-102554-8)

**授業概要**

私たちは意識することなく、映画や演劇、漫画に接している。現実存在した人物、歴史的な事件を扱った作品などが大きな問題となり、裁判となった例もある。

現実に生きた、あった事件を後世の私たちは享受することになるが、それは「事実」なのだろうか？私たちは「娯楽」として作品を享受しているにすぎないのではないか。

前期では基本的な二次創作作品を学び、後期では日本の新しい文化となってきた 2.5 次元作品を学ぶ。これは日本独自のものとして発展し、海外公演、インバウンドにも活用されている。コミックマーケットに代表されるようなオタク文化として発達したサブカルチャーは今では日本文化として確立した。日本における二次創作文化を学ぶことによって、「オリジナル」という問題にも迫っていきたい。

**授業計画**

第 1 回	歴史的人物を描くことの問題	第 16 回	2 次元世界を 2.5 次元へ
第 2 回	歴史的な事件を描くことの問題	第 17 回	「テニスの王子様」が火付け役
第 3 回	表現とプライバシー1 三島由紀夫の「宴のあと」裁判	第 18 回	「刀剣乱舞」へと続く道
第 4 回	表現とプライバシー2 「エロス+虐殺」判例	第 19 回	ライブビューイングの魅力
第 5 回	表現とプライバシー3 「石に泳ぐ魚」をめぐる	第 20 回	黎明期となる宝塚とマンガ原作の舞台化
第 6 回	大正、昭和のエログロナンセンス	第 21 回	「ベルサイユのばら」
第 7 回	江戸川乱歩とメディア	第 22 回	少女マンガ化「はいからさんが通る」
第 8 回	原作と二次創作	第 23 回	萩尾望都の世界「ポーの一族」
第 9 回	アダプテーションの差異 「屋根裏の散歩者」1 映画とドラマ	第 24 回	東宝ミュージカル「エリザベート」
第 10 回	アダプテーションの差異 「屋根裏の散歩者」2 マンガ	第 25 回	惑星ピスタチオと「弱虫ペダル」
第 11 回	アダプテーションの差異 「犬神家の一族」1 映画	第 26 回	キャラクター中心に演じる、劇団新感線
第 12 回	アダプテーションの差異 「犬神家の一族」2 ドラマとマンガ	第 27 回	歌舞伎「義経千本桜」から、スーパー歌舞伎「ヤマトタケル」へ
第 13 回	アダプテーションの差異 「源氏物語」1 映画	第 28 回	そして「ワンピース」の歌舞伎化
第 14 回	アダプテーションの差異「源氏物語」 2「夕顔」「紅葉賀」「末摘花」	第 29 回	アメリカンコミック、グラフィックノベルのブロードウェイ舞台化
第 15 回	前期のまとめ	第 30 回	後期のまとめ

**到達目標**

・日本の表象文化が過去から現在において、どのような作品を生み出してきたかを説明できる。

**履修上の注意**

・授業中にノートを取り、わからなかったことについては調べてくること。  
※進行状況により授業内容を変更する場合がある。

**予習・復習**

予習：授業最後に次回の予習箇所を伝える。  
復習：講義内容を踏まえ、自己の興味あるテーマを探りつつ、卒業研究へつなぐレポートを書く。

**評価方法**

・授業中の質問に積極的に答える  
・授業態度 20%、授業内レポート 40%、学期末レポート 40%。

**テキスト**

・必要に応じ、適宜指導する。

**授業概要**

この専門演習では、イギリスの階級社会を特に言葉を中心に様々な側面から考察し、作品にどのような影響を与えているのかを分析できるよう指導する。

春期は、ロンドンの花売り娘を主人公とした作品『マイ・フェア・レディ』（映画）におけるロンドンの労働者階級の特徴を、主に「コックニー」と呼ばれる彼らの言葉を中心に考察する。考察にあたっては、適宜、原作であるジョージ・バーナード・ショーが書いた戯曲『ピグマリオン』を参照する。

秋期は、中流階級のバンクス家でメアリー・ポピンズがナニー（乳母）として活躍するメアリー・ポピンズ関連の作品、イギリスで最も読まれている小説家ジェーン・オースティンの『高慢と偏見』や『エマ』などの階級社会をテーマにした作品を同様の観点から考察する。

**授業計画**

第1回	イントロダクション	第16回	復習と秋期のイントロダクション
第2回	イギリスの階級	第17回	メアリー・ポピンズ：作品と背景
第3回	『マイ・フェア・レディ』	第18回	メアリー・ポピンズ：ナニーについて
第4回	階級と言語：概論	第19回	メアリー・ポピンズ：階級と言語
第5回	ロンドンの下町の言葉コックニー	第20回	卒業論文について
第6回	音声学者ヘンリー・スイート	第21回	第1回卒論テーマ経過発表（1）
第7回	[h]無しの発音：歴史的な考察	第22回	第1回卒論テーマ経過発表（2）
第8回	映画 第1幕第1幕～4場の考察	第23回	第1回卒論テーマ経過発表（3）
第9回	映画 第1幕第5幕～11場の考察	第24回	ジェーン・オースティン：作品と背景
第10回	階級と言語：具体例	第25回	J・オースティン：『エマ』
第11回	階級と言語：UとNon-U	第26回	J・オースティン：『高慢と偏見』
第12回	階級と言語：アメリカ英語	第27回	第2回卒論テーマ経過発表（1）
第13回	映画 第2幕第1幕～4場の考察	第28回	第2回卒論テーマ経過発表（2）
第14回	映画 第2幕第5幕～7場の考察	第29回	第2回卒論テーマ経過発表（3）
第15回	春期の総まとめ	第30回	総まとめ

\*授業の内容、進度は、ゼミ生の人数等によって若干変更されることがある。

**到達目標**

英語という言葉階級の側面から考察して、英語学の基礎的な考察の仕方を身につけることができる。

**履修上の注意**

この演習は、英語が苦手な方でも受講できるように配慮する。テキスト、プリント等はほとんど日本語で書かれたものを使用する。言語や階級に興味がある方ならば受講を歓迎する。

**予習・復習**

毎回テキストやあらかじめ配布された資料を読んで、学習する内容を理解して授業に臨み、授業後は、授業の内容をもう一度確認するとともに、適宜、授業で学習した同様の例が他にないか自分でも検討してみることを望む。

**評価方法**

授業内での発表（40%）、レポート（春期・秋期各一回）（40%）を重視し、さらに学習に対する姿勢（20%）も考慮に入れて、総合的に評価する。

**テキスト**

- ・教科書名：『英語の階級：執事は「上流の英語」を話すのか？』
  - ・著者名：新井潤美
  - ・出版社名：講談社
  - ・出版年（ISBN）：2022年（9784065277072）
- その他、専門的な知見を深めるために、適宜ハンドアウトを配布し、参考書を紹介する。  
著作権保護のため、各自『マイ・フェア・レディ』のDVD等を購入のこと。

**授業概要**

本科目は古典文学で卒業論文を執筆する学生を主に対象として開講する。本年春期は古典文学の最高峰の一つである『源氏物語』の最初の巻（桐壺巻）を取り扱う。口頭発表の仕方を工夫してもらえるよう指導する。夏休みには卒論の題目や構想を練ってもらい、秋期はいくつかの講義の後に各々の卒業論文の進捗状況の報告と質疑応答の場を設ける。卒業論文に向けてこの授業で確実な一歩を踏み出してもらいたい。

**授業計画**

第1回	前期のオリエンテーション	第16回	後期のオリエンテーション
第2回	『源氏物語』概論1（成立／作者／構造）	第17回	論文を読み討論する①
第3回	『源氏物語』概論2（成立／享受／伝本）	第18回	論文を読み討論する②
第4回	桐壺巻概論	第19回	卒論の構想の練り方①
第5回	発表のしかた／資料の作り方	第20回	卒論の構想の練り方②
第6回	質疑応答のしかた／論文の探し方	第21回	作品の選択と討論①
第7回	関連する論文を読む①	第22回	作品の選択と討論②
第8回	関連する論文を読む②	第23回	発表の仕方（応用編）①
第9回	学生発表①	第24回	発表の仕方（応用編）②
第10回	学生発表②	第25回	学生の卒業論文の構想発表①
第11回	学生発表③	第26回	学生の卒業論文の構想発表②
第12回	学生発表④	第27回	学生の卒業論文の構想発表③
第13回	学生発表⑤	第28回	学生の卒業論文の構想発表④
第14回	学生発表⑥	第29回	学生の卒業論文の構想発表⑤
第15回	春期の総括	第30回	学生の卒業論文の構想発表⑥
		第31回	秋期の総括・一年間の総括

**到達目標**

- ① 古典文学について理解することができる。
- ② 作品に関連する論者を読解する力を身につけることができる。
- ③ 自分の考えをまとめて分かりやすく他者に発表することができる。
- ④ 卒業論文の構想をまとめて執筆を順当に進めることができる。

**履修上の注意**

- ・ゼミは教員と学生でなりたつ小さな社会である。この社会の一員として基本的な規律や礼儀を守りそれぞれが助け合って飛躍する場とする気持ちを持っていただきたい。
- ・無断欠席は厳禁とする。必ず連絡をいただきたい。
- ・適切な距離感をもった教員との連絡は絶やさないでいただきたい。

**予習・復習**

- ・予習：授業の各回についての予習資料を事前に用意するので必ず目を通しておくこと。  
疑問点は書き出しておくこと。
- ・復習：空欄補充方式のリアクション課題に取り組み必ず提出すること。  
疑問点が残ったらそのままにせず次の授業等で積極的に質問し解決して進むこと。

**評価方法**

授業への参加度（20%）、発表内容（40%）レポート（40%）で総合的に評価する。

**テキスト**

不要。適宜プリント等を用意する。

**授業概要**

近現代文学の名作を読み、作品に対する研究・批評の方法を身につけるとともに、作品レポートの執筆を通して卒業論文作成のための基礎固めを行う。作品を読み解きつつ、そこに織り込まれた時代社会に対する認識を深めながら、それがあくまでも作家の個性を通して作中に現れているメカニズムを把握する。それとともに、作品に込められた哲学・思想的文脈も捉えられるように指導する。春期は主に明治・大正期の作品を読んでいき、春季は昭和期の作品と長編作品を一編読んでいく予定である。

**授業計画**

第1回	ガイダンス1 作品研究の方法	第16回	ガイダンス2 作家と作品の関係
第2回	泉鏡花『高野聖』を読む	第17回	夏目漱石『草枕』を読む
第3回	泉鏡花『高野聖』を読む	第18回	夏目漱石『草枕』を読む
第4回	泉鏡花『高野聖』を読む	第19回	夏目漱石『草枕』を読む
第5回	芥川龍之介『河童』を読む	第20回	夏目漱石『草枕』を読む
第6回	芥川龍之介『河童』を読む	第21回	夏目漱石『草枕』を読む
第7回	芥川龍之介『河童』を読む	第22回	夏目漱石『草枕』を読む
第8回	芥川龍之介『河童』を読む	第23回	夏目漱石『草枕』先行論研究
第9回	横光利一『機械』を読む	第24回	村上春樹『1973年のピンボール』を読む
第10回	横光利一『機械』を読む	第25回	村上春樹『1973年のピンボール』を読む
第11回	横光利一『機械』を読む	第26回	村上春樹『1973年のピンボール』を読む
第12回	大江健三郎『死者の奢り』を読む	第27回	村上春樹『1973年のピンボール』を読む
第13回	大江健三郎『死者の奢り』を読む	第28回	村上春樹『1973年のピンボール』を読む
第14回	大江健三郎『死者の奢り』を読む	第29回	村上春樹『1973年のピンボール』を読む
第15回	大江健三郎『死者の奢り』を読む	第30回	村上春樹『1973年のピンボール』先行論
		第31回	まとめ 作品レポートの提出

**到達目標**

- ・ 作品を自身の眼で読み、主題や動機の在り処を捉えることができる。
- ・ 先行研究を踏まえつつ、自身の把握を明確にすることができる。
- ・ 第三者を説得する論理性のある文章を書くことができる。

**履修上の注意**

この授業は近代文学ゼミに所属する学生に向けて開かれる授業である。基本的に日本近代文学を対象として卒業論文を執筆予定の学生が受講されたい。

**予習・復習**

- ・ 発表担当者は必ず当該授業までにレジュメを準備し、つつがなく発表を行う。
- ・ 発表者以外の出席者も必ず作品を読み、発表者に質疑ができるように準備しておく。
- ・ 授業後は内容を見直し、作品への把握を深めつつ、レポート作成へつなげるようにする。

**評価方法**

期末レポート（40%）と作品の発表レジュメ（40%）、及び授業参加態度（20%）により評価する。

**テキスト**

前期のテキストは教員が配布する。後期中編作品のテキストは学生が各自で文庫本を用意する。

- ・ 教科書名：
- ・ 著者名：
- ・ 出版社名：
- ・ 出版年（ISBN）：

**授業概要**

本演習は、主に前近代史（古代～江戸時代）の分野で卒業論文のテーマを決めようと考えている学生を対象にしています。春期の間の内に、大まかなテーマを決めていただく予定です。

春期の間には、論文・史料の探し方をレクチャーするとともに、天皇をテーマに据え、関連する映像を視聴して、自分なりの意見を構築する練習を行います。そしてそれに基づき討論することで、自分の意見を適切に言語化し他者に伝える練習や、他者からの意見や質問を踏まえた練り直しの練習も行います。そのうえで、実際に学術論文講読を通して、口頭発表・質疑応答の練習を行います。

秋期は、各自の卒業論文テーマに基づき、実際にレジュメを作成して口頭報告を行う予定です。

卒業論文執筆に向けて、或いは卒業後での社会人生活に向けて、自分の考えを相手に伝える力を養うことができるよう指導します。

**授業計画**

第1回	春期ガイダンス	第16回	秋期ガイダンス
第2回	史料の検証一郡評論争を例に一	第17回	研究報告の手法について
第3回	「天皇」は伝統的か	第18回	卒論構想報告 1回目①
第4回	皇位継承とその展開	第19回	卒論構想報告 1回目②
第5回	中世以降へ続く天皇	第20回	卒論構想報告 1回目③
第6回	皇位継承の実例①	第21回	卒論構想報告 1回目④
第7回	皇位継承の実例②	第22回	卒論構想報告 1回目⑤
第8回	皇位継承の実例③	第23回	卒論構想報告 1回目⑥
第9回	学術論文講読①	第24回	卒論構想報告 2回目①
第10回	学術論文講読②	第25回	卒論構想報告 2回目②
第11回	学術論文講読③	第26回	卒論構想報告 2回目③
第12回	学術論文講読④	第27回	卒論構想報告 2回目④
第13回	学術論文講読⑤	第28回	卒論構想報告 2回目⑤
第14回	学術論文講読⑤	第29回	卒論構想報告 2回目⑥
第15回	春期まとめ	第30回	秋期まとめ

**到達目標**

- ・自分の意見を適切に相手に伝えることができる。
- ・他者と意見を突き合わせ、レポート、ひいては卒業論文執筆に繋がる意見構築ができる。
- ・天皇の歴史・現状について具体的に理解し、今後の議論に国民の一人として参加できる。

**履修上の注意**

インターネットからの根拠不明・曖昧な情報を鵜呑みにせず、客観的根拠に基づく意見構築を行ってください。

実際を受講人数などによって、シラバスを多少変更する場合があります。

報告者は欠席・遅刻厳禁です。

**予習・復習**

各回の報告者は、必ず授業開始前までにレジュメを用意すること。

報告者以外も、テキストの報告に関わる部分を事前に読んでおくこと。

授業後は、質疑応答での意見や質問を踏まえてレジュメを見直し、期末レポートに繋げること。

**評価方法**

口頭報告・質疑応答や、期末レポートで判断する。

期末レポート(40%)、報告(40%)、授業態度(20%)

**テキスト**

適宜授業中に配布・紹介する。

**授業概要**

本演習では、グループで心理学な研究を行う事を通して、4年次の卒業研究に向けた「基礎体力」を身につけることを目指して指導します。

春期は、心理学の論文を読むことを通じて、秋学期に行う研究のテーマを決定します。その際、ただ受け身的に読むのではなく、「もっとこの研究を面白くするにはどうしたら良いか」、「他の条件だったら結果が変わるのではないか」というように、批判的に読む力を養います。

秋期は、グループで、調査・実験を実施する、データを分析する、論文を書くという作業を通して、心理学の論文を書くために必要な力を身に着けます。

**授業計画**

※受講者の人数や理解度に応じて内容は変更する可能性があります。

第1回	春期の進め方の説明	第16回	研究のテーマ決定
第2回	論文の探し方・選び方	第17回	調査用紙の作成
第3回	講師によるモデル発表	第18回	
第4回	心理学研究法	第19回	調査の実施
第5回	論文の輪読①	第20回	
第6回	・担当者は発表資料を作成して臨む	第21回	
第7回	・それ以外の方は発表を受けて、自分な	第22回	データ分析
第8回	りの意見を述べる	第23回	
第9回	論文の輪読②	第24回	論文作成（方法・結果）
第10回	・担当者は発表資料を作成して臨む	第25回	
第11回	・それ以外の方は発表を受けて、自分な	第26回	
第12回	りの意見を述べる	第27回	論文作成（問題・考察）
第13回	振り返り、グループ分け	第28回	
第14回	研究テーマの検討	第29回	研究結果の発表
第15回		第30回	

**到達目標**

- ・心理学の基本的な研究法の知識を身につけることができる。
- ・心理学的な研究の進め方を理解し、行う事ができる。
- ・心理学の研究論文を作成できる。

**履修上の注意**

授業時間外に、論文を読む、作業を進めるなどの必要があります。  
 このような大変な作業についてこられる人、心理学研究に強い関心がある人を歓迎します。  
 また、発表担当でない人も、授業中に積極的に議論に参加し意見を述べることを求めます。

**予習・復習**

春期は、発表担当者は、事前に論文を読み、発表資料を作ってくる。  
 秋期は、研究の進み具合に従い、作業を進める。

**評価方法**

授業への参加態度、発表の様子や内容、議論における発言などを踏まえて総合的に評価する。

**テキスト**

教科書は特に指定せず、必要に応じて授業中に資料を配布する。

**授業概要**

本演習では、専門文献講読、研究構想発表、先行研究探求、研究計画発表を通じて、4年次の卒業論文執筆に向けて基礎体力を養えるよう指導する。

春期前半は M.マクルーハンや W.ベンヤミンなどメディア論の古典文献を輪読形式で読む。春期後半は、学生各自が卒業論文の構想を作り、ゼミ全体で共有して練り上げ、夏休みを通して「研究における問い（なぜ～なのか?）」を深めていく。

秋期前半は、受講生各自が論文構想に基づいて関連する先行研究を探し、ゼミ全体で共有する。秋期後半は、卒業論文執筆に向けて学生各自が研究計画を作成し、ゼミ全体で共有し練り上げる。この段階では、問いと研究方法と研究仮説の整理、参考文献リストと執筆スケジュールの作成、調査の準備などを行う。

**授業計画**

第 1 回	春学期ガイダンス	第 16 回	秋学期ガイダンス
第 2 回	専門文献講読①	第 17 回	先行研究探求①
第 3 回	専門文献講読②	第 18 回	先行研究探求②
第 4 回	専門文献講読③	第 19 回	先行研究探求③
第 5 回	専門文献講読④	第 20 回	先行研究探求④
第 6 回	専門文献講読⑤	第 21 回	先行研究探求⑤
第 7 回	専門文献講読⑥	第 22 回	先行研究探求⑥
第 8 回	専門文献講読まとめ	第 23 回	先行研究探求まとめ
第 9 回	研究構想発表①	第 24 回	研究計画発表①
第 10 回	研究構想発表②	第 25 回	研究計画発表②
第 11 回	研究構想発表③	第 26 回	研究計画発表③
第 12 回	研究構想発表④	第 27 回	研究計画発表④
第 13 回	研究構想発表⑤	第 28 回	研究計画発表⑤
第 14 回	研究構想発表⑥	第 29 回	研究計画発表⑥
第 15 回	春学期の総括	第 30 回	秋学期の総括

**到達目標**

- ・エンタテインメント産業やポップカルチャーをメディア文化研究の対象として客観的に考察することができる。
- ・専門的な文章を読解し、疑問点を洗い出し、考察を深めることができる。
- ・説得的なプレゼンテーションを行い、ディスカッションを経て、自分なりの課題を見つけることができる。
- ・卒業論文の構想立案から完成までの一連の流れを管理、遂行することができる。

**履修上の注意**

- ・無断欠席をせず、ゼミ活動へ積極的に取り組むこと。
- ・ゼミ活動を通じて、ゼミのメンバーや教員と「良い人間関係」を構築できるよう、常に心がけること。
- ・受講者数や進捗状況によって、授業計画を多少変更する可能性があることを留意しておいてください。
- ・メディア関係者を外部講師として招聘する予定があることを留意しておいてください。

**予習・復習**

- ・発表や報告に際しては、レジュメなどの配布資料を作成すること。
- ・文献講読では報告者以外も報告に関わる部分を読み、疑問点などを明らかにしたうえで授業に参加すること。
- ・エンタテインメント産業やポップカルチャーの動向に常にアンテナを張り、授業内容の理解を深めること。
- ・自らが主体となり、必要事項やスケジュールを管理しながら卒業論文完成に向けて積極的に取り組むこと。

**評価方法**

- ・授業に対する姿勢（発表準備や質疑応答への参加）80%、レポートや成果物等の授業内提出課題 20%

**テキスト**

- ・テキストは特に指定しない。
- ・必要に応じて適宜、資料を配布する。

**授業概要**

本演習は、英語学もしくは言語学に興味のある学生を対象とし、その分野で卒業論文を書くための基礎力を養うことを目的とする。春期の前半は言語学の前提知識と人間言語の特徴について講義する。後半は『ふだん使いの言語学』（川添愛, 2021, 新潮社）を学生による発表を交えながら講読し、そこから興味のあるトピックをみつけ、秋期以降、そのトピックについての研究を進めていく。秋期は講義を中心に生成文法統語論の知識を身につけていく。また、春期に決めたトピックについての研究を進めていき、研究内容をもとに論文（レポート）を作成する。ハンドアウトの作成方法、論文の書き方についても随時指導していく。

**授業計画**

第1回	オリエンテーション	第16回	オリエンテーション
第2回	科学としての言語学 1	第17回	研究発表 ①
第3回	科学としての言語学 2	第18回	句構造規則 1
第4回	言語データの読み方・書き方 1	第19回	句構造規則 2
第5回	言語データの読み方・書き方 2	第20回	句構造規則 3
第6回	生物のコミュニケーションと人間言語	第21回	句構造規則の問題点 1
第7回	母語の知識と母語獲得 1	第22回	句構造規則の問題点 2
第8回	母語の知識と母語獲得 2	第23回	意味役割と格
第9回	外国語の知識と臨界期 1	第24回	受動態の構造
第10回	外国語の知識と臨界期 2	第25回	非能格動詞と非対格動詞
第11回	『普段使いの言語学』 1	第26回	まとめ
第12回	『普段使いの言語学』 2	第27回	ソフトウェアを使った統語構造の書き方 1
第13回	『普段使いの言語学』 3	第28回	ソフトウェアを使った統語構造の書き方 2
第14回	『普段使いの言語学』 4	第29回	研究発表②
第15回	春期まとめ	第30回	秋期まとめ レポート提出

※ 進度や内容は受講者の興味や状況に応じて変更する。

**到達目標**

- ・人間言語についての理解を深めることができる。
- ・生成文法統語論の基礎知識を身につけ、英語の基本的な文、受動態の文、非能格/非対格自動詞構文などの統語構造が描くことができる。
- ・「ことば」に関する研究を行い、論文（レポート）を作成することができる。

**履修上の注意**

英語学（概論）と英語学（各論）を履修済み、もしくは同時履修することが望ましい。統語論は論理的・科学的な思考方法が必要な積み上げ型の学問分野であるので、少しでもわからないことが出てくるとそれ以降の授業についていくのが難しくなる。家で復習をしっかりと行い、わからないことがあれば授業で積極的に質問し、わからないことをそのままにしないようにすること。

**予習・復習**

- ・予習：テキストの次回の学習範囲をよく読み、わからなかったことや疑問点をまとめておく。
- ・復習：授業で習ったことをもう一度よく整理しておく。授業でわからなかったところは次回の授業までにクリアにしておくか、疑問点をよく整理しておく。

**評価方法**

発表(40%)、年度末レポート(40%)、授業内発言や授業態度 (20%)から総合的に評価する。

**テキスト**

初回のオリエンテーションで指示する。

**授業概要**

本演習では4年次の卒業論文に向けた準備をする。  
したがって、特定の言語現象を見定め、分析し、調べ物をする、それを発表資料にまとめ、口頭発表をすることを身につけた上で、卒業論文の執筆の手掛かりにすることを目標とする。前期では、認知言語学の言語観に基づき、知覚や行為などの認知能力の観点から日本語のメカニズムを紐解く。また卒業論文に必要な研究方法や情報収集の仕方なども指導する。後期では、卒業論文に向けた受講者の発表が中心となる。

**授業計画**

第1回	オリエンテーション	第16回	前期の復習
第2回	視点とことば	第17回	フレームからみた事物の意味
第3回	主観的移動と主観的变化	第18回	概念メタファーとメタファー表現
第4回	知覚・経験と存在	第19回	自己と主観性
第5回	話し手としての「私」	第20回	ことばと公共性
第6回	人称と視点	第21回	自分が「私」になるとき
第7回	視点からみた日本語らしさ	第22回	卒業論文のチュートリアル
第8回	モノの性質からみた知覚と行為	第23回	論文講読
第9回	ことばと認知的基盤	第24回	卒業論文に向けた担当者発表(1)
第10回	多義語	第25回	卒業論文に向けた担当者発表(2)
第11回	卒業論文の構想発表(1)	第26回	卒業論文に向けた担当者発表(3)
第12回	卒業論文の構想発表(2)	第27回	卒業論文に向けた担当者発表(4)
第13回	卒業論文の構想発表(3)	第28回	卒業論文に向けた担当者発表(5)
第14回	卒業論文に構想発表(4)	第29回	卒業論文に向けた担当者発表(6)
第15回	前期のまとめ	第30回	後期のまとめ

**到達目標**

- ・自ら言語資料を集めて分析することができる。
- ・自分自身で日本語学の分野の発表の専門的な準備をすることができる。
- ・自分の関心のある言語現象について論文としてまとめることができる。

**履修上の注意**

「日本語の文法、日本語学（概論）、日本語学（各論）、日本語コミュニケーション、言語学、社会言語学」などの日本語学・言語学系の科目のうち少なくとも一部を既に履修しているか、並行して履修してもらいたい。特に「日本語の文法」は必須なので、未修なら並行履修する必要がある。

**予習・復習**

授業は、各自が発表準備を間に合わせることを前提としている。各自発表に間に合うように努力されたい。発表の順番などは臨機応変に決める。受講者の人数次第で講義の回数や発表の回数を調整する。

**評価方法**

発表（40パーセント）、前期・後期レポート（40%）、その他受講態度等（20パーセント）で評価する。

**テキスト**

- ・教科書名：『知覚と行為の認知言語学—「私」は自分の外にある』
- ・著者名：本多啓
- ・出版社名：開拓社
- ・出版年（ISBN）：2013年（978-4-7589-2541-9）

**授業概要**

本ゼミでは「教育とは〇〇であるべき」「教員とは××であるべき」といったような「規範としての教育」ではなく、現実としての教育はどうなっているのか（なっていたのか）といった「事実としての教育」を分析するための方法を指導する。そのために春期は、教育に関するテーマをグループで1つ選び、その内容について、調査・研究する。その中で、卒業論文に向けた研究のイロハを学ぶ。なお、この成果については、学園祭においてポスター発表をする予定である。秋期は、各自で卒論のテーマを決めてもらい、卒論の「問い」になるまでブラッシュアップすることによって4年次の卒業論文執筆に備える。

**授業計画**

第1回	ガイダンス（春期の進め方）	第16回	ガイダンス（秋期の進め方）
第2回	教育に関するテーマの決定	第17回	卒業論文の書き方：卒業論文とは何か
第3回	テーマに関する問いをたてる	第18回	卒業論文の書き方：「問い」をたてる
第4回	テーマに関する先行研究の調査	第19回	卒業論文の書き方：先行研究の調査
第5回	テーマに関する調査①	第20回	卒業論文の書き方：先行研究の検討
第6回	テーマに関する調査②	第21回	卒業論文の書き方：先行研究の検討
第7回	テーマに関する調査③	第22回	卒業論文の書き方：先行研究の検討
第8回	テーマに関する中間発表①	第23回	卒業論文の書き方：先行研究の検討
第9回	テーマに関する中間発表②	第24回	卒業論文の書き方：調査計画の作成
第10回	テーマに関する調査④	第25回	卒業論文執筆計画書の発表
第11回	テーマに関する調査⑤	第26回	卒業論文執筆計画書の発表
第12回	テーマに関する調査⑥	第27回	卒業論文執筆計画書の発表
第13回	テーマに関する成果発表①	第28回	卒業論文執筆計画書の発表
第14回	テーマに関する成果発表②	第29回	卒業論文執筆計画書の発表
第15回	夏休みの課題について	第30回	まとめ：卒業論文に向けて
		第31回	

**到達目標**

- ・「教育」という事象を実証的に分析する基礎的能力を身に付けることができる。
- ・教育について実証的に分析するための調査手法の基礎的能力を身に付けることができる。
- ・先行研究の調査方法・批判方法を身に付けることができる。
- ・卒業論文の執筆計画をたてることができる。

**履修上の注意**

- ・原則的に教職課程を履修している学生、教職を目指す学生を対象としたゼミです。それ以外の学生が履修することは妨げないですが、ゼミの方針を確認したうえで履修してください。
- ・本ゼミは、4年時に教育実習に行くことを前提として、3年時から卒論の準備を行うため、早めに卒論の準備をする覚悟を持って履修してください。
- ・授業では、学生による調査報告を多く行います。また、春期の研究成果を学園祭でポスター発表する予定です。その覚悟をもって参加してください。

**予習・復習**

予習：研究テーマに関する、先行研究等を勉強する。  
 復習：授業での教員からの意見、ゼミ生からの意見などを検討し、発表に反映させる。

**評価方法**

授業への参加態度（40%）、発表内容（60%）などを踏まえて総合的に評価する。

**テキスト**

- ・必要に応じて資料を配付する。
- ・参考資料・授業中に使用する資料などは、適宜配付する。

**授業概要**

この授業は、四年次での卒業論文執筆に必要な西洋史に関する専門知識の習得を目指す。  
 春期の演習では、学術論文を精読する。最初に松沢裕作『歴史学はこう考える』と一緒に読み、各分野の論文の書き方やその特徴を把握してから、実際に西洋史を扱った論文を具体例として取り上げる。これにより、史料の読み方、使い方、論文の構造などを学ぶ。  
 夏休みには卒業論文のテーマについて、文献リストを作成し、秋期はそのリストに基づくテーマで口頭発表を行う。その際にはテーマに関する史料と文献を見つけて正確に読み解き、先行研究動向を把握することを目指して指導する。

**授業計画**

第1回	ガイダンス：授業概要	第16回	秋期のイントロダクション
第2回	論文検索の方法	第17回	夏季休暇課題振り返り
第3回	文献リスト作成方法	第18回	文化史とは何か
第4回	『歴史学はこう考える』第1章	第19回	文化史史料解題
第5回	『歴史学はこう考える』第2章	第20回	ジェンダー史とは何か
第6回	『歴史学はこう考える』第3章	第21回	ジェンダー史文献講読
第7回	政治史文献講読	第22回	映画『ヒストリ・ボーイズ』鑑賞
第8回	『歴史学はこう考える』第4章	第23回	受講生発表
第9回	経済史文献講読	第24回	受講生発表
第10回	『歴史学はこう考える』第5章	第25回	受講生発表
第11回	社会史文献講読	第26回	受講生発表
第12回	『歴史学はこう考える』第6章	第27回	受講生発表
第13回	史学史文献講読	第28回	受講生発表
第14回	史料論文文献講読	第29回	報告予備日
第15回	春期のまとめ	第30回	演習の総まとめ

**到達目標**

- ・学術論文独特の構成や表現、専門用語に通じ、その意味を正確に読み取ることができる
- ・情報検索手段を使いこなし、集めた情報を一定のルールに従って整理することができる
- ・メディアリテラシーを身につけ、論理的に物事を考える力を養うことができる。

**履修上の注意**

- ・「西洋史学入門」「西洋史概論」「西洋史特論」はすでに履修していることが望ましい。また、「西洋史資料講読」も履修済であることが望ましい。
- ・西洋史や西洋の文化についての授業を受講していること。
- ・欠席、遅刻、早退の際は事前に教員に連絡し、了解を得ること。

**予習・復習**

- ・教科書、事前に渡すテキストをよく読み、わからない語句は意味を調べておく。
- ・テーマについて疑問点、ディスカッションしたいことを明確にして授業に臨む。
- ・授業の際はノートを取り、終了後はノートを見直して内容を復習する。

**評価方法**

前期発表（20%）夏季休暇課題（20%）、後期発表（30%）、授業への貢献度（30%）を総合して評価を決定する。

**テキスト**

松沢裕作『歴史学はこう考える』ちくま新書、2024年